

# Asia Indicators

発表日: 2024年5月2日(木)

韓国・輸出は半導体をけん引役に底入れが続く(Asia Weekly(4/29~5/2))

~自動車輸出額、米国向け輸出額は月次ベースで過去最高を更新するなど輸出を押し上げる~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/29(月)	(タイ)3月輸出(前年比)	▲10.9%	▲4.5%	+3.6%
	3月輸入(前年比)	+5.6%	+4.6%	+3.2%
4/30(火)	(韓国)3月鉱工業生産(前年比)	+0.7%	+5.4%	+4.6%
	(中国)4月製造業PMI	50.4	50.3	50.8
	4月非製造業PMI	51.2	--	53.0
	4月財新製造業PMI	51.4	51.0	51.1
	(オーストラリア)3月小売売上高(前月比・季調済)	▲0.4%	+0.2%	+0.2%
	(台湾)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+6.51%	+5.65%	+4.91%
5/1(水)	(韓国)4月輸出(前年比)	+13.8%	+13.7%	+3.1%
	4月輸入(前年比)	+5.4%	+6.2%	▲12.3%
5/2(木)	(韓国)4月消費者物価(前年比)	+2.9%	+3.0%	+3.1%
	(オーストラリア)3月輸出(前月比・季調済)	+0.1%	--	▲3.2%
	3月輸入(前月比・季調済)	+4.2%	--	+4.4%
	(インドネシア)4月消費者物価(前年比)	+3.00%	+3.06%	+3.05%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [韓国]~半導体などを中心に輸出は底入れの動きが続く一方、サービス関連を中心にインフレ圧力がくすぶる~

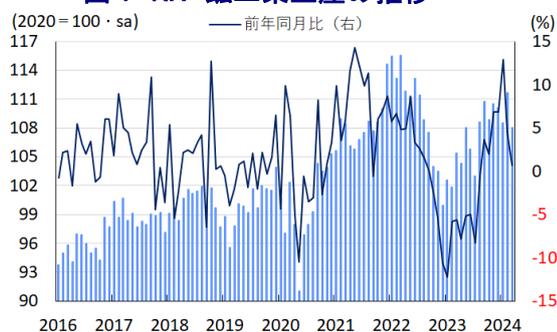
30日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+0.7%となり、前月(同+4.6%)から伸びが鈍化している。前月比も▲3.2%と前月(同+2.9%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。鉱業部門や製造業部門で減産の動きが強まるとともに、建設業やサービス業の生産も軒並み下振れする動きが確認されるなど、総じて生産活動が弱含んでいる様子がうかがえる。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産底入れの動きに一服感が出ているほか、電気機械関連や電装品関連などに加え、自動車や船舶など輸送用機械など輸出財を中心に幅広く生産が下振れしているほか、こうした動きを反映して中間財や資本財など全般的に生産が鈍化するなど、経済活動が頭打ちの様相を強めている。

1日に発表された4月の輸出額は前年同月比+13.8%となり、前月(同+3.1%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財で

ある半導体の輸出が堅調な推移をみせているほか、自動車の輸出額は月次ベースで過去最高を更新するなど輸出全体をけん引する動きをみせている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが底入れの動きを強めているほか、米国向けの輸出額は月次ベースで過去最高を更新するなど輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+5.4%となり、前月（同▲12.3%）から14ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底入れの動きを強めている。輸出の堅調さを反映して素材や部材などに対する需要が押し上げられているほか、原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は+15.29億ドルと前月（+42.91億ドル）から黒字幅が縮小している。

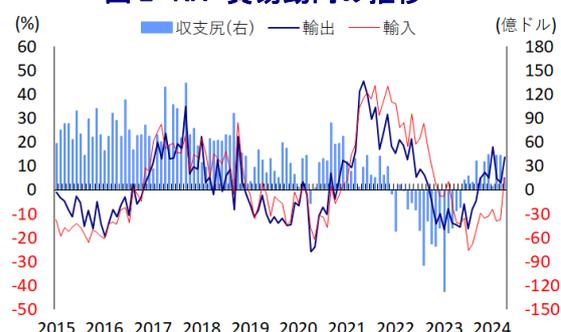
2日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+2.9%となり、前月（同+3.1%）から鈍化して3ヶ月ぶりに3%を下回る伸びとなっている。前月比も+0.04%と前月（同+0.15%）から上昇ペースが鈍化しており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格の上昇圧力はくすぶる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は5ヶ月ぶりの下落に転じるなど上昇の動きに一服感が出ており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.3%と前月（同+2.4%）から伸びが鈍化しているものの、インフレ率とともに中銀目標（2%）を上回る推移が続いている。さらに、前月比は+0.22%と前月（同+0.07%）から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の上昇や金融市場における通貨ウォン安による輸入インフレ圧力にも拘らず幅広く財価格は下振れする動きがみられる一方、全般的にサービス物価の上昇圧力が強まる動きがみられるなど、インフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

図1 KR 鉱工業生産の推移



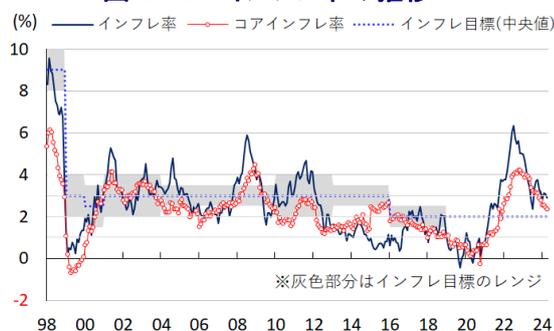
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 KR インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

## [インドネシア]～生活必需品の物価に落ち着きも、ルピア安やサービス物価も影響してインフレ圧力はくすぶる～

2日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+3.00%となり、前月（前月+3.05%）から伸びが鈍化している。前月比も+0.25%と前月（同+0.52%）から上昇ペースは鈍化しており、国際原油価格の底入れにも拘らずエネルギー価格は落ち着いた推移が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落に転じるなど底入れの動きに一服感が出るなど、生活必需品の物価は落ち着いた動きをみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.82%と引き続き中銀目標（2.5±1.0%）の範囲内で推移しているものの、前月（同+1.77%）から加速するなど緩やかに底入れの動きを強めている。前月比も+0.29%と前月（同+0.23%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格は落ち着いた推移が続くも輸送コストに押し上げ圧力が掛かる動きが続いている上、金融市場における通貨ルピア安を受けた輸入インフレ圧力の高まりを反映して財価格が押し上げられているほか、サービス物価も同様に上昇の動きを強めるなど、幅広くインフレ圧力が強まる様子がうかがえる。

図4 ID インフレ率の推移



## [オーストラリア]～物価高の長期化で家計消費に頭打ちの兆しが出るなか、輸出は一進一退の展開が続く～

30日に発表された3月の小売売上高（季調済）は前月比▲0.4%となり、前月（同+0.2%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている。中期的な基調を示す前年同期比ベースの伸びも+0.8%と前月（同+1.5%）から鈍化しており、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。食料品や外食関連などで堅調な動きがみられるものの、衣料品や日用品、宝飾品など幅広い分野で底入れの動きに一服感が出ていることが重石となっている。物価高が長期化するなかで家計部門は消費支出の抑制に向けた動きを強めているとみられ、インフレの粘着度の高さが確認されているなかで中銀（オーストラリア準備銀行）の政策運営は困難さを増していると捉えられる。

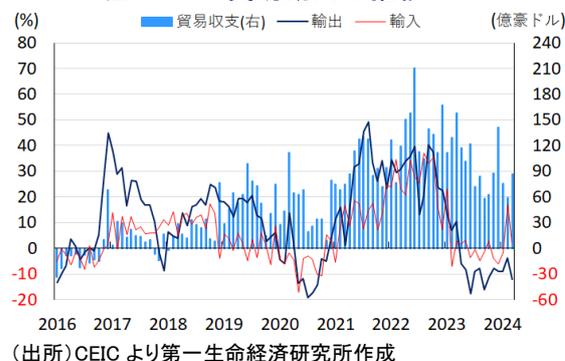
2日に発表された3月の輸出額（季調済）は前月比+0.1%となり、前月（同▲3.2%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く推移が続いている。財別では、鉄鉱石や石炭など鉱物資源関連のほか、食肉や乳製品、果物など食料品関連の輸出に底堅さがみられる一方、国際価格が底入れしているにも拘らず原油や天然ガス関連の輸出に下押し圧力が掛かるなど輸出全体の重石となる状況が続いている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けに底入れの動きがみられるほか、ASEANなどアジア新興国向けにも底堅さがみられるものの、日本向けや米国向けなどは力強さを欠くなど対照的な動きをみせている。一方の輸入額は前月比+4.2%と前月（同+4.4%）から4ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾

向で推移するなど輸出と対照的に底入れする動きがみられる。財別では、電気機械や機械製品関連の輸入は堅調な推移をみせているほか、原油をはじめとするエネルギー資源関連や化学製品関連の輸入にも底堅い動きがみられるなど、内需の堅調さが輸入を下支えする展開が続いている。結果、貿易収支は+86.34億豪ドルと前月（+58.73億豪ドル）から黒字幅が拡大している。

図5 AU 小売売上高の推移



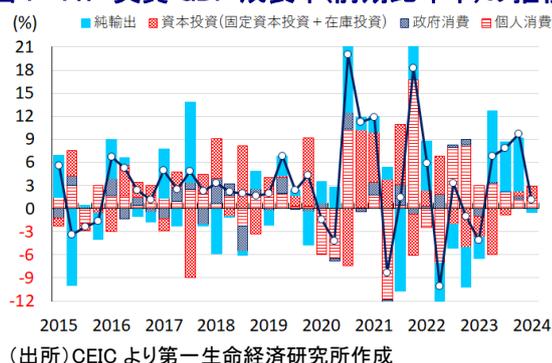
図6 AU 貿易動向の推移



### 【台湾】～輸出のみならず家計消費をはじめとする内需も堅調に推移するなど、景気は底入れの動きが続く～

30日に発表された1-3月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+6.51%となり、前期（同+4.93%）から加速して11四半期ぶりの伸びとなっている。前期比年率ベースの成長率は+1.13%と4四半期連続のプラス成長で推移しているものの、前期（同+9.70%）から伸びは鈍化しており、底入れの動きが続くもその勢いに陰りが出ている。主力の輸出財である半導体関連を中心とする輸出の堅調さや外国人来訪者数の底入れの動きを反映して輸出は拡大の動きを強めているほか、好調な輸出や米中摩擦の激化の動きを追い風に企業部門による設備投資意欲は底入れするとともに、堅調な雇用環境を追い風に家計消費も活発化するなど、幅広く内需が拡大する動きがみられる。ただし、幅広い内需拡大の動きを反映して輸入は輸出を上回るペースで拡大しており、純輸出（輸出－輸入）の成長率寄与度は前期比年率ベースで4四半期ぶりのマイナスに転じており、足下の景気の足を引っ張る一因となっている。

図7 TW 実質GDP成長率(前期比年率)の推移

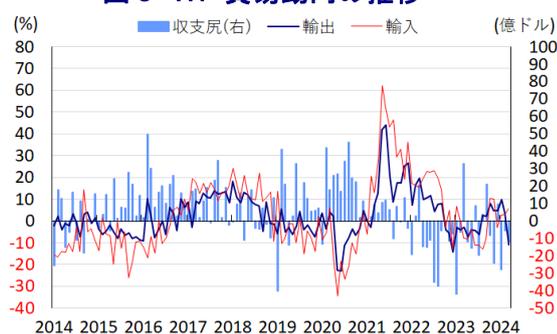


### 【タイ】～輸出は幅広く頭打ちしている一方、国際原油価格の底入れを反映してエネルギーの輸入は底堅い～

29日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲10.9%となり、前月（同+3.6%）から8ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少するとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、前月に大

大きく拡大した金の輸出額が一転下振れしたことに加え、鉱物資源関連のほか、農産品や農業製品関連、製造業関連など幅広い分野で輸出が頭打ちの動きを強めている。一方の輸入額は前年同月比+5.6%となり、前月（同+3.2%）から伸びが加速している。ただし、前月比は2ヶ月連続で減少するなど底打ちの流れに一服感が出る動きがみられるものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さがうかがえる。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して素材や部材など中間財関連や機械製品関連の輸入に下押し圧力が掛かるとともに、資本財や消費財関連の輸入も下振れしている一方、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー関連の輸入は堅調な動きをみせている。結果、貿易収支は▲11.63億ドルと前月（▲5.54億ドル）から赤字幅が拡大している。

図8 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。